

2月4日、午後6時15分過ぎ。大井川鐵道千頭駅前。

吐く息が白い。人影のまばらだった駅前広場に、自転車に乗った子どもたちが集まり始めた。次第に増えるトレーニングウェア姿の人影。いつの間にか、大人の姿も混じり始めていた。6時30分、20人近い人が駅前広場に集まり、中村稔さんの合図でストレッチが始まった。

走るう会(中村稔代表)は、千頭地区周辺でジョギングを楽しむ有志の会だ。毎週水曜日、この時間に千頭〜田代〜小長井の周回コースを走っている。下は小学3年生から上は50歳代まで、年齢の幅はかなり広い。代表の中村稔さんに話を聞いた。

「この会の発端は約8年前にさかのぼります。第1回しずおか市町村対抗駅伝(平成12年)の開催が、設立のきっかけでした。駅伝の選手兼スタッフ

入会してくれます。健康のためだったり、仲間づくりのためだったり。親に誘われて走り出した子もいます。ただ走る事を追求したいという人も当然います。走るという行為を楽しめれば、それでいいんです」。メンバーによって、走り方もまちまちだと稔さんは続ける。「速く走ってもいいし、遅く走ってもいい。今走っている周回コースは、1周約3kmあるんですね。それを1周走る子もいれば、4周走る人もいます。その人に合ったスタイルやペースで参加してくれるれば、それが一番なんです。わたしはこの町に、走る仲間を増やしていきたいだけなんですから」。大勢で走れば、危険も少なそうです。「最近夜になると、一人で走っている人や、ウォーキングしている人をよく見かけますよね。わたしたちにぜひ声をかけてほしいんです。本川根の人でも、中川根の人でも構いません

フとして参加していた高士寿和(奥泉)、石原一則(崎平)とわたしは、小学生の選手が見つからず、苦労していました。そこで、マラソン競技の底辺拡大と、選手育成を目的として、3人で「走るう会」を立ち上げました。走ることを町に根付かせたかったんです」と、当時は振り返る。

それから約8年、特に会員募集や活動告知をした訳でもないのに、自然と走る仲間は増えていったと言う。「最初は少ない人数で走っていました。徐々に口コミで広がっていったんですね。だから正確な会員数は今も分からないんですよ」と稔さんは笑う。

今では、しずおか市町村対抗駅伝に出場する子も会に在籍している。選手育成という当初の目的は達成されたのでは?と尋ねると、「実は、今はそういう狙いには、あまりこだわっていないんです。メンバーたちはみんないるいるなきっかけて

し、老若男女も問いません。仲間と走ると楽しいし、危険も少ない。きつと長続きすると思いますよ」。

会のメンバー同士が集まって、各地のマラソン大会や駅伝大会に積極的に参加していると言う。「メンバー同士で誘い合っていて、いろんな大会に出場しています。最近では森町や春野の大会にも出場しました。2月以降も大会が目白押しですよ」と意気込む。

一人で走り続けることはなかなか難しいが、仲間がいればお互いに切磋琢磨したり、あるいは会話を楽しんだりすることもできる。大会情報などを共有し合うこともできる。そんなところも、この会の魅力の一つなんだろう。

「走ることを趣味として広げていきたい。この町に『走る文化』を根付かせたいんですよ」と笑顔で話す稔さん。その額には、さわやかな汗がにじんでいた。



この町に「走る文化」を根付かせたい

# 走るう会

走るう会代表 中村稔さん (崎平)

**走るう会の会員を随時募集中**  
走るう会では、会員を随時募集しています。健康のために走りたい人、仲間と一緒に走りたい人、夜一人で走るのが怖い人など、理由は何でも構いません。わたしたちと一緒に走りませんか?  
毎週水曜日の午後6時30分、千頭駅に集合し、千頭・小長井周辺を走っています。小学生から大人までが参加した、気軽な会です。興味がある人は、ぜひご連絡ください。 中村稔 ☎ (59) 2474



このまち  
このひと